

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は 2021 年には、創立 100 周年を迎える伝統校です。長い歴史において「文武両道」の良き伝統を貫き、社会に有為な人材を数多く輩出してきました。平成 23 年度は大阪府から「GLHS 校（グローバルリーダーズハイスクール）」の指定を受けることができました。平成 27 年度は文部科学省から「SSH（スーパーサイエンスハイスクール）」の 2 期目の指定を受けると同時に、「SGH（スーパーグローバルハイスクール）」の指定も受けました。いずれも、「高い志」と夢をもち、科学技術の分野など様々な分野で国際社会において活躍する人材の育成をめざしています。そのために必要な力として、「高い学力と探究心の育成」「チャレンジ精神の涵養」「人権感覚・国際感覚の育成」「英語力」「リーダーとしての資質」等が挙げられます。

本校では、「ハイレベルかつ興味関心を引き出す授業と課題研究等の探究的学習」「生徒の進路第一希望を実現するためのカリキュラムと学習・進路指導」「生徒の自主的かつ協同的活動を促す行事・部活動」等を通し、知・徳・体のバランスの取れた全人教育をめざしています。

2 中期的目標

1 進路を切り拓く学力の育成

(1) 生徒の学習を支援するプログラムを実施し、自学自習を促進し、校内外での学習習慣を確立させる。

ア 1 年生全員を対象に、1 学期の早期に学習支援プログラムを行い、高校での授業及び自学自習に取り組むための態度の身につけさせる。

イ 1、2 年生は自学自習習慣を身につけるために、ノークラブデーにおける自習室の活用を促し、年間 2 回は自学自習日を設ける。

ウ 文理学科全員に課している課題研究において、大学生・大学院生の TA（ティーチングアシスタント）を活用するなどし、きめ細やかな指導を行い、ルーブリック評価で検証し課題研究の質の向上を図る。

※課題のルーブリック評価は、SSH 事業及び SGH 事業最終年度である平成 31 年度には平均 3.4 以上をめざす。

(2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実現

ア 生徒が高い目標を持ち大学進学ができるよう、チャレンジ精神と粘り強く取り組む姿勢を育むよう担任団を中心としたサポート体制を確立する。

イ 同窓生を講師とした職業希望別進路講演会を行い、生徒の正しい職業観育成をめざす。

ウ 全員が志望大学のオープンキャンパスに参加し、参加報告書の作成にあたり、京都大学、大阪大学等での研究室見学を促進する。

エ 授業で自分の考えをまとめ発表する機会を充実させ、新しい大学入試制度にも対応できる「豊高型アクティブ・ラーニング」を教職員が実践できる体制を整備する。

オ 授業はもとより、土曜活用（講習、セミナー）、進路指導の充実により、進路第一志望の実現割合を増加させる。

※平成 31 年度には、生徒の 3 年次の進路第一希望を 70%以上（毎年 5%上げる）、京都・大阪・神戸大学等の難関大学 80 名以上にする。

2 国際舞台で活躍する人材育成

(1) 「志」の育成

ア 将来のグローバルリーダーの資質として必要な社会貢献の意識を醸成するため、「志^{こころざし}」学として、ボランティア活動等の体験的活動を行い、その成果の実践報告書を作成する。

※「志」学の一環として地域交流事業の参加者（対象 2 年生）100%実施を維持していく。

(2) 英語によるコミュニケーション力の育成

ア TOEFL コース生として高度な 4 技能（リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング）の養成に向け、TOEFL iBT 仕様の授業を、SET（スーパーイングリッシュティーチャー）中心に、文理学科 80 名に対して行うとともに、生徒全体に対してグローバル人材に必要な英語運用能力の育成に取り組む。

イ 1、2 年生の希望者 20 名程度を対象にグローバルスタディープログラムとして、英語即興型ディベートを取り入れて、英語運用能力を育成する。

ウ 文理学科及び普通科の生徒を対象として、大阪大学・関西学院大学・豊中地域在住の留学生等との英語による交流の機会を確保する。

エ 英国語学研修（参加者 30 名以上）を継続実施し、外国人とのコミュニケーションを通じて英語によるコミュニケーション力の向上を図る。

※TOEFL コース生については、TOEFL iBTにおいて、60 点以上は、1 年生は 4 人以上、2 年生は 16 人以上、3 年生は 32 人以上を目標とするとともに、GTECにおいて、680 点以上は、1 年生は 3 人以上、2 年生は 5 人以上、3 年生は 10 人以上を目標にする。

(3) SSH 事業・SGH 事業の推進

ア 世界レベルあるいは全国レベルのコンクールで入賞者を出そうとするよう、各種コンテスト等に参加させ、高い志を維持させる。

イ 科学リテラシー・プレゼンテーション能力・英語運用能力等の育成するプログラムを土曜セミナーとして実施する。（SSH 事業）

ウ 国内での科学（物理、化学、生物、地学）研修を継続実施するとともに、海外での研修旅行を行い、国際交流を通じて科学的な見方、考え方、表現力等を育む。（SSH 事業）

エ 事業の主題となるイスラーム世界の理解を、課題研究を通じて深めさせ、国内外でのフィールドワークを通じて、新たなグローバルスタンダードを創造するプログラムを研究開発する。

オ 能勢キャンパスが有する様々な教育資源を活用し、SSH・SGH 事業の充実をめざす。

※SSH・SGH 事業では毎年国への報告が求められるとともに平成 29 年度に中間評価が行われる。

3 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み

(1) 各教科で研究授業・研究協議を実施するとともに、生徒による授業アンケート結果を教科会議において分析することにより、改善策を検討し授業力向上を図る。

(2) 新規採用教員を対象に定期的に校内で管理職や首席等を講師とした研修を行い、OJT につなげ、教員としての資質向上を図る。

(3) 全校一斉退庁日及びノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。

※授業アンケートにおける総合平均は継続して 3.2 以上をめざす。

※超過勤務時間が年間 800 時間を超える職員 0 をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「授業内容は自分の学習や発達に役立っている」の肯定的評価が88%、「質問に行くとしていねいに教えてもらえる」は94%と高い評価であるが、「授業についていけている」73%、「学習と部活動を両立している」65%と、生徒の自己学習力を身につけるに指導方法が検討課題である。 ・生徒の「授業で自分の考えをまとめ、発表する機会がある」の肯定的評価は70%と昨年に比べ増加している。他方、教員アンケートでは「学校は思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」「教員の間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」、「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」がいずれも約90%と、着実にアクティブ・ラーニング型授業に対する認識が深っており、今後、更なる改善が期待できる。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「学校では進路についての情報を得ることができる」の肯定的評価は86%と高いが、保護者の「生徒の進路に関して、家庭への情報発信・連携がとれている」の評価は56%となっている。進路関連の取組を保護者に直接メール配信するなど情報発信の方法を工夫する。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校長は教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」(93%)と教職員から高い評価である。また「適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取組める環境にある」(80%)、「学校運営に教職員の意見が反映されている」に関しては77%(昨年度より17%増)と、個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担がなされ、教員の能力を発揮できるようになってきている。 ・保護者の「学校のホームページを見ている」が39%と、昨年度から掲載している「校長ブログ」の日々更新で改善を図っているが、更新が不十分な箇所もあり、改善の余地がある。 	<p>【第1回(5/26)】 (学校からの経営計画の説明に対して了解)</p> <p>【第2回(10/20)】 《進路指導について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊中高校在学中の留学ではなく、海外の大学をめざす生徒が出てくると思うので、学校は生徒を幅広くサポートできるようにお願いしたい。同窓会に海外で研究を経験された方に講演してもらうなどすれば、生徒の将来の視野が広がると思う。 ・受験だけでなく、文化祭などの学校行事や地域と交流など、バランスが取れた充実した学校生活を送ることが将来、役に立つと思えるので、引き続き対応していただきたい。 <p>【第3回(12/15)】 【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が自ら進路を切り拓くことが大事であり、特に2年生に対して力をいれていただきたい。 ○進路説明会については同窓会も支援しているが、できる限り早い時期に世の中の情報を、次にどんな受け皿があるのかなど、生徒自身が興味を持たすようにしてほしい。 ○アンケート結果を見ると、特に入試制度変更による英語試験の前倒し、対応性のある授業、高校生活を体験する機会を与えることによって、むしろ目的が絞られて生徒の意欲が湧いてくるのではないかと思う。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○私立は学校の特色があるためなのか、学校アピールが上手くはつきり打ち出している。公立学校は私立に比べ学校アピールが弱い。 ○公立高校は地域と密着していて、出身中学校の生徒の高校生活の情報交換ができるなど、地域を大事にしているため、情報提供についてさらに力を注いでほしい。 ○SSH、SGHの取組について、本校では中学生に理科実験を行うスーパーサイエンスジュニアを開催しているが、今回はどこが参加しやすいかを聞いて実施した結果、参加者がかなり増えた。何かを開催する際、学校の思いだけを考えるのではなく、参加される方のニーズをしっかりと捉えることが重要であると考えます。 <p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒と保護者に対して校長ブログ等を使った情報発信を行うことが大事である。また、情報が取れない人には別途の方法を考え、発信して欲しい。 <p>【生徒相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒への相談は、担任に限らずクラブ顧問の先生でいろんな大人の意見を聞いてもらった方がよく、PTAとも同様にいろんな方がいるので、さらに充実してほしい。 ○担任以外にも気軽に相談できる先生がいるという項目が低い。このような点で、生徒があいさつしても返してくれないところにつながっているのではないか。 <p>【働き方改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これからは長時間労働している教諭の健康面に目を向けて学校経営してもらいたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路を切り拓く学力の育成	(1) 生徒の学習を支援するプログラムを実施し、自学自習を促進し、校内外での学習習慣を確立させる。	(1) ア 1年生全員を対象に、1学期の早期に学習サポートプログラムを行い、高校での授業及び自学自習に取り組むための態度の身につけさせる。 イ・ノークラブデーにおける自習室の活用を促し、自学自習の習慣を身につけさせる ・1、2年生は自学自習習慣を身につけるために、1学期終了、2学期終了後の年間2回は自学自習日を設ける。 ・自習室を放課後開放時間について、生徒からのアンケート結果をもとに改善を図る。 ウ 文理学科の生徒の課題研究内容の充実を図るため、京都大学・大阪大学等の学生や院生をTA(ティーチングアシスタント)として活用し、ルーブリック評価で検証する。	(1) ア 学習サポートプログラムにおける生徒の満足度を90%以上にする。(平成28年度は85%) イ・学校自己診断の生徒アンケートにおける自習室の活用を20%以上にする。(平成28年度は18%) ・自学自習日の参加満足度90%以上にする。(平成28年度は88%) ・自習室の開放の満足度を80%以上を維持する。(平成28年度は80%) ウ・SSH、SGHの評価をともに平均3.0以上にする。(平成28年度SSHは3.7、SGHは3.4)	(1) ア 模擬試験の振り返りを行わせるなどの取組みを新規に実施。満足度92% イ・自習室の活用36%(◎) ・自学自習日の参加の満足度90%(○) ・自習室の開放の満足度81%(○) ウ SSH3.3、SGH3.2(○)
	(2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実	(2) ア 生徒が目標を持った大学進学をめざし、高い目標に向かってチャレンジ精神を持ちつづけ、粘り強く取り組む姿勢を育み、サポートするとともに、保護者への進路情報発信の充実(携帯電話連絡網の活用等)を図る。 イ 生徒の正しい職業観育成のために、同窓生が行う職業希望別進路講演会を実施する。 ウ 1、2年全員が志望大学のオープンキャンパスに参加し、大学紹介の冊子を作成する。 エ 京都大学、大阪大学・神戸大学・大阪市立大学・関西学院大学等の見学、研究室訪問を行う。 オ 授業で自分の考えをまとめ発表する機会を充実させ、新しい大学入試制度にも対応できる「豊高型アクティブラーニング」を教職員が実践できる体制を整備する。 カ 授業、土曜講習、進路指導により進路第一志望を実現する。	(2) ア・京大・阪大・神大の希望者数を100名以上にする。(平成28年度は133名) ・学校自己診断の保護者アンケートにおける進路に関する家庭との連携の肯定的回答を70%以上にする。(平成28年度は58%) イ・同窓生の協力を12名以上を維持して希望職業ごとに2回の講演を行う。(平成28年度は14名) ・学校教育自己診断(生徒)において「将来の進路や生き方について考える機会がある」について85%以上。(平成28年度は80%) ウ 昨年に引き続き全員参加。(平成28年度100%) エ 施設見学等の参加者100名以上を維持する。(平成28年度は146名) オ 学校教育自己診断(生徒用1年生)において「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」については80%以上。(平成28年度は70%) カ・「希望する進路が実現するための講習や補習が充実している」を70%以上。(平成28年度は68%) ・生徒の3年次の進路第一希望を50%以上、京都・大阪・神戸大学等の難関大学60名以上にする。(平成28年度は50%、48名(現役))	(2) ア 3年生の京大・阪大・神大の希望者数156名(◎) ・「進路に関する家庭との連携」の肯定的回答56%(△) イ・職業希望別進路講演会を9月14日実施(同窓生15名が講師として参加) ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定的回答83%(○) ウ 参加率100%(○) エ 施設見学等の参加者78名(△) オ・10月5日に職員研修「授業の『逆向き』設計のすすめ」(講師 大阪教育大学 森田英嗣教授)を実施 ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」については70%。 (△) カ・「希望する進路が実現するための講習や補習が充実している」は70%(○) ・3年次の進路第一希望実現率50.7%(○) 京都・大阪・神戸大学等の難関大学合格者数52名(現役)(△)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 国際舞台で活躍する人材育成</p>	<p>(1) 「志」の育成</p> <p>(2) 英語によるコミュニケーション力の育成) キャリア教育の充実と進路第一志望の実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 地元豊中市や能勢町と連携し、公民館・小中学校・高齢者施設等の取組みや活動に、主として2年生が参加し、体験的活動を行い、自己有用感や社会貢献の志を育てる。</p> <p>イ 生徒自治会のリーダーシップ養成に向けて、体育大会・校内大会・文化祭等の学校行事の企画・立案及び一般生との意見収集する機会を増やして、組織的に行動する。</p> <p>(2)</p> <p>ア TOEFLiBT 仕様の授業を、SET (スピーキングリッシュティーチャー) 中心に、1、2年の文理学科それぞれ80名に対して行い、ハイレベルの英語コミュニケーション力を育成する。</p> <p>イ 1、2年生の希望者20名程度を対象にグローバルスタディープログラムとして、英語即興型ディベートを取り入れて、英語運用能力を育成する。</p> <p>ウ TOEFL コース生だけでなく、学校全体としてグローバル人材に必要とされる英語運用能力の育成に取り組む。</p> <p>エ 文理学科及び普通科の生徒を対象として、大阪大学・関西学院大学・豊中地域在住の留学生等との英語による交流の機会を確保する。</p> <p>オ 英国語学研修(参加者30名以上)を継続実施し、外国人と交流を通じて英語によるコミュニケーション力の向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア アンケート(生徒向け)における活動に肯定的な回答が85%以上。(平成28年度は85%)</p> <p>イ 体育大会、校内大会、文化祭への関わりの度合いを</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会: →55%以上 (H28:58%) ・校内大会: →90%以上 (H28:91%) ・文化祭: →50%以上 (H28:52%) <p>満足度はいずれの場合も90%以上にする。(平成28年度はいずれも92%)</p> <p>(2)</p> <p>ア TOEFLiBT 第1学年で4人以上が60点以上にする。(平成28年度2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスニング講習参加者100名以上(平成28年度は101名) <p>イ 英語運用能力テストの伸びを1年間で25%以上にする。(平成28年度22%)</p> <p>ウ 英語運用能力テストの伸びを1年間で15%以上にする。(平成28年度15%)</p> <p>エ 留学生等との交流を1年全員360名に対して実施する。(平成28年度1年全員400名)</p> <p>オ 英国語学研修の満足度を80%以上にする。(平成28年度は95%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 肯定的な回答85% (○)</p> <p>イ 体育大会・文化祭のデータ (◎)</p> <p>関わりの度合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会: →97% ・校内大会: →91% ・文化祭: →83% <p>0 満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会: →99% ・校内大会: →93% ・文化祭: →97% <p>(2)</p> <p>ア 機器の不具合により測定できなかったため0名 (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者119名 (◎) <p>イ 伸び率 19% (△)</p> <p>ウ 伸び率 15% (○)</p> <p>エ 大阪大学(49名)立命館大学(12名)の留学生との交流に1年生360名全員参加 (○)</p> <p>オ 英国語学研修の満足度93.4% (◎)</p>
	<p>(3) SSH事業・SGH事業の推進</p>	<p>(3)</p> <p>ア 世界レベルあるいは全国レベルのコンクールで入賞者を出すことができるよう、各種コンテスト等に参加させ、高い志を維持させる。</p> <p>イ 科学リテラシー・プレゼンテーション能力・英語運用能力等の育成するプログラムを土曜セミナーとして実施する。(SSH事業)</p> <p>ウ 国内での理科研修及び小・中学生向け実験教室を継続実施するとともに、海外での研修旅行を行い、国際交流を通じて科学的な見方、考え方、表現力等を育む。(SSH事業)</p> <p>エ 主題となるイスラーム世界の理解を、課題研究を通じて深めさせ、国内外でのフィールドワークを通じて、新たなグローバルスタンダードを創造するプログラムを研究開発する。(SGH事業)</p> <p>オ 能勢キャンパスが有する様々な教育資源を活用し、SSH・SGH事業の充実をめざす。</p>	<p>(3)</p> <p>ア シンガポール高校生科学チャレンジコンテストなど世界レベルのコンテスト及び全国レベルのコンテストにおける入賞を獲得する。</p> <p>イ SSHアンケートにおいて、「科学に興味関心をもった生徒」を90%以上にする。(平成28年度は97.7%)</p> <p>ウ 延べ研修参加生徒の100名以上を維持する。(平成28年度は105名)</p> <p>エ SGHアンケートにおいて、「課題研究に興味関心をもった生徒」を80%にする。(平成28年度は81.0%)</p> <p>オ 「能勢キャンパス調整委員会」等により、能勢高校との共通理解を教員が深める機会を年間に10回もつ。</p>	<p>(3)</p> <p>ア シンガポール国際科学チャレンジ2017に参加(6月) (○)</p> <p>総合優秀者賞1名、 最優秀工業製品賞1名、 最優秀革新的設計賞1名</p> <p>イ 「科学に興味関心をもった生徒」90.7% (○)</p> <p>ウ 延べ研修参加生徒101名 (○)</p> <p>エ 「課題研究に興味関心をもった生徒」82.3% (○)</p> <p>オ SSHで能勢高校農場の訪問、SGHで遠隔授業装置を活用し、互いの中間発表、本校SETによる英語の遠隔操作授業、本校文化祭で能勢高校の物品販売、本校土曜講習の能勢高校教員の見学等20回 (◎)</p>

府立豊中高等学校

<p>3 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み</p>	<p>(1) 研究授業・研究協議を実施し、授業アンケート結果を分析し、改善策を検討することにより授業力向上を図る。</p> <p>(2) 新規採用教員対象の研修を行い、OJTにつなげ資質向上を図る。</p> <p>(3) 全校一斉退庁日及びノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。</p>	<p>(1) 教科会議を定例化し、研究授業に関する協議や授業アンケート・外部模試（一部教科を除く）の結果分析を行い、生徒へ定着度合いを踏まえて授業改善を行う。</p> <p>(2) 初任者に対して管理職・首席やメンターとなる教員との対話形式の校内研修を継続して行い、社会人としての基本姿勢や、教科指導・生徒指導等の実践的スキルの獲得をめざす。</p> <p>(3) 全校一斉退庁日の周知徹底を図るとともに、管理職による指導・助言等を徹底する。</p>	<p>(1) 授業アンケートによる評価の平均値3.2以上を維持する。（平成28年度の平均値は3.2）</p> <p>(2) 研修を週1回行う。（平成28年度は年間で25回実施。）</p> <p>(3) 年間800時間以上超過勤務時間を有する教職員を5人以下にする。（平成28年度は9人。）</p>	<p>(1) 1回目（7月実施）平均3.2 2回目（12月実施）平均3.2 (○)</p> <p>(2) 12月末で23回実施（○）</p> <p>(3) 年間800時間以上超過勤務時間を有する教職員4人（◎）</p>
--------------------------------------	---	---	--	---